

一第43編一 修道院の極楽

ペドラルベス修道院は1327年にハイメ2世アラゴン王と王妃エリセнда・デ・モンカダによって創設され、現在でも修道女たちの生活が続いている。

この名前は白い石というラテン語に由来し、エリセнда王妃によってつけられたと言われている。現在では大半が博物館となっており、内部も見学が可能である。建物はカタルーニア・ゴシック様式の代表とされ、中庭回廊に面した建物は3階におよぶ。中央に大きな泉を持ち、大きなヤシの木、ハーブなどの植えられた中庭は正に現世の極楽である。極めて細い石柱で

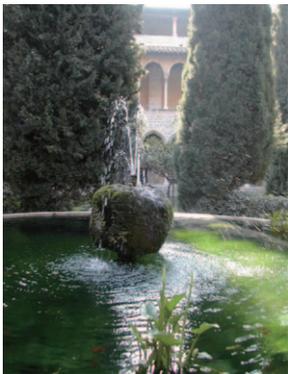


写真43-1 中庭中央の泉



写真43-2 中庭を囲む回廊

*1
Monasterio de
Pedralbes

*2

Jaime II Aragon
(1267~1327)

*3

Elisenda de
Moncada

支えられた回廊の幾重ものアーチは大変繊細で美しく、みずみずしい中庭を垣間見ながら時が経つのも忘れてしまう。

近くにあるバルセロナ大学でのフォーラムと共に招かれた旧知のベルギー人建築家ルシアン・クロルと連れ立って、たつぷりここで半日を過ごした。そして、どこからでもかつてカイロで見つけたモスクの中庭を起源とするパティオのすばらしさを味わうことができた。

この修道院の周囲は、修道院に因んでペドラルベス地区と名付けられたバルセロナ屈指の高級住宅街である。従って、ここではバルセロナでは珍しい一軒家の邸宅を多数見かけることができる。グリッドの町割りから解放された変化に富んだ街並みに、野趣に溢れた住まいが並ぶ。修道院の規律に従った美しさと、その周辺に展開する自由な住まいの魅力。バルセロナというコンパクト・シティの持つ懐の深さに感嘆するのである。



写真43-4 三層の回廊



写真43-3 回廊の陰翳礼讃

*4
Compact City: 中心
市街地の活性化とス
ロールの抑制の両立に
よる、人間的で持続可
能な都市環境をめざす
都市政策